

「学習指導案」の作成について

新大分スタンダードのすすめ

「新大分スタンダード」で主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成する
ワンランク上の授業を目指して

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- * 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- * 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- * 追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

* 思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- * 「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- * 「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



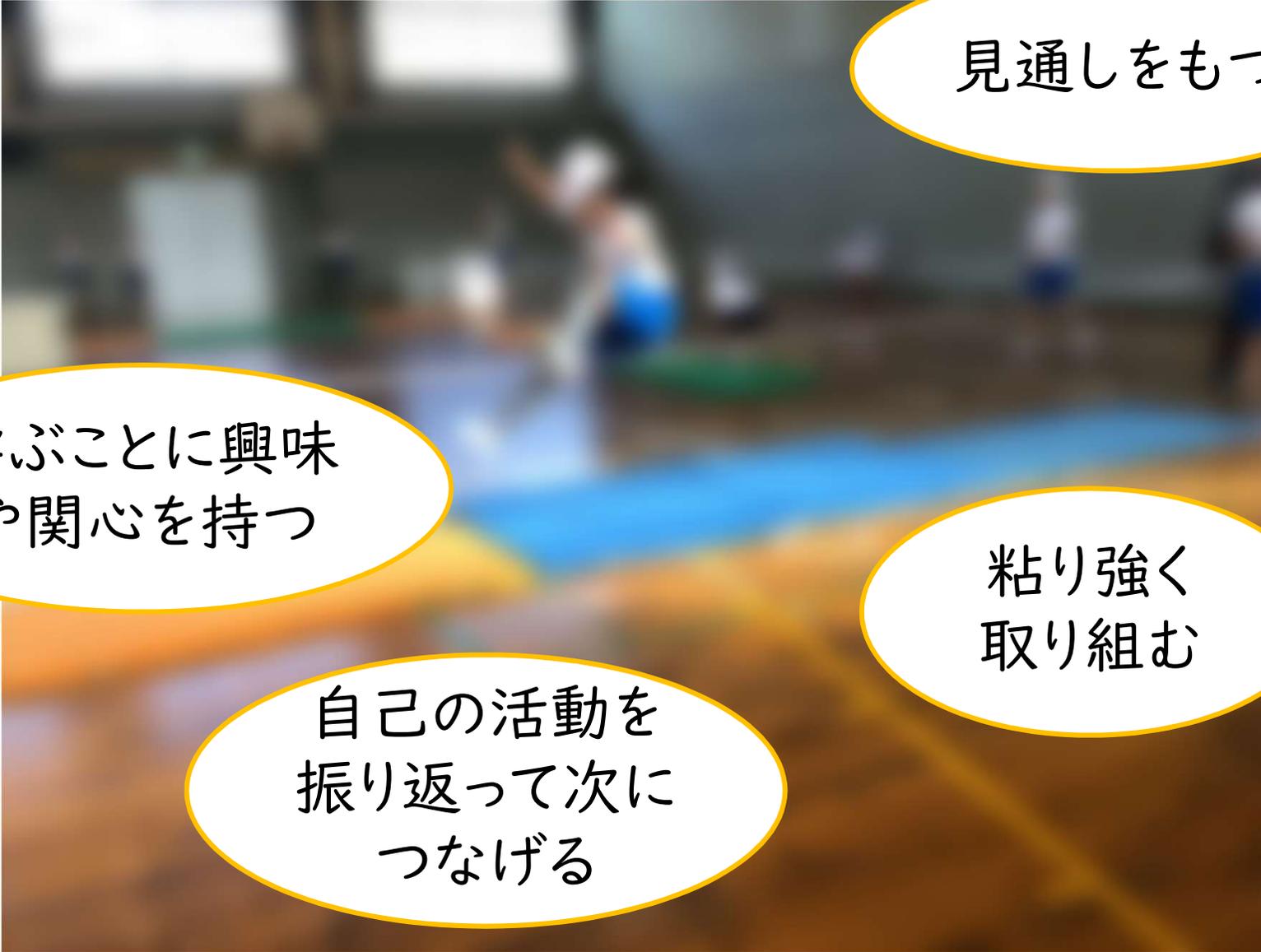
安心して学べる
「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を創造する学習展開

- * 各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現・交流→振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
 - ・ 知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
 - ・ 様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

主体的・対話的で深い学びの実現



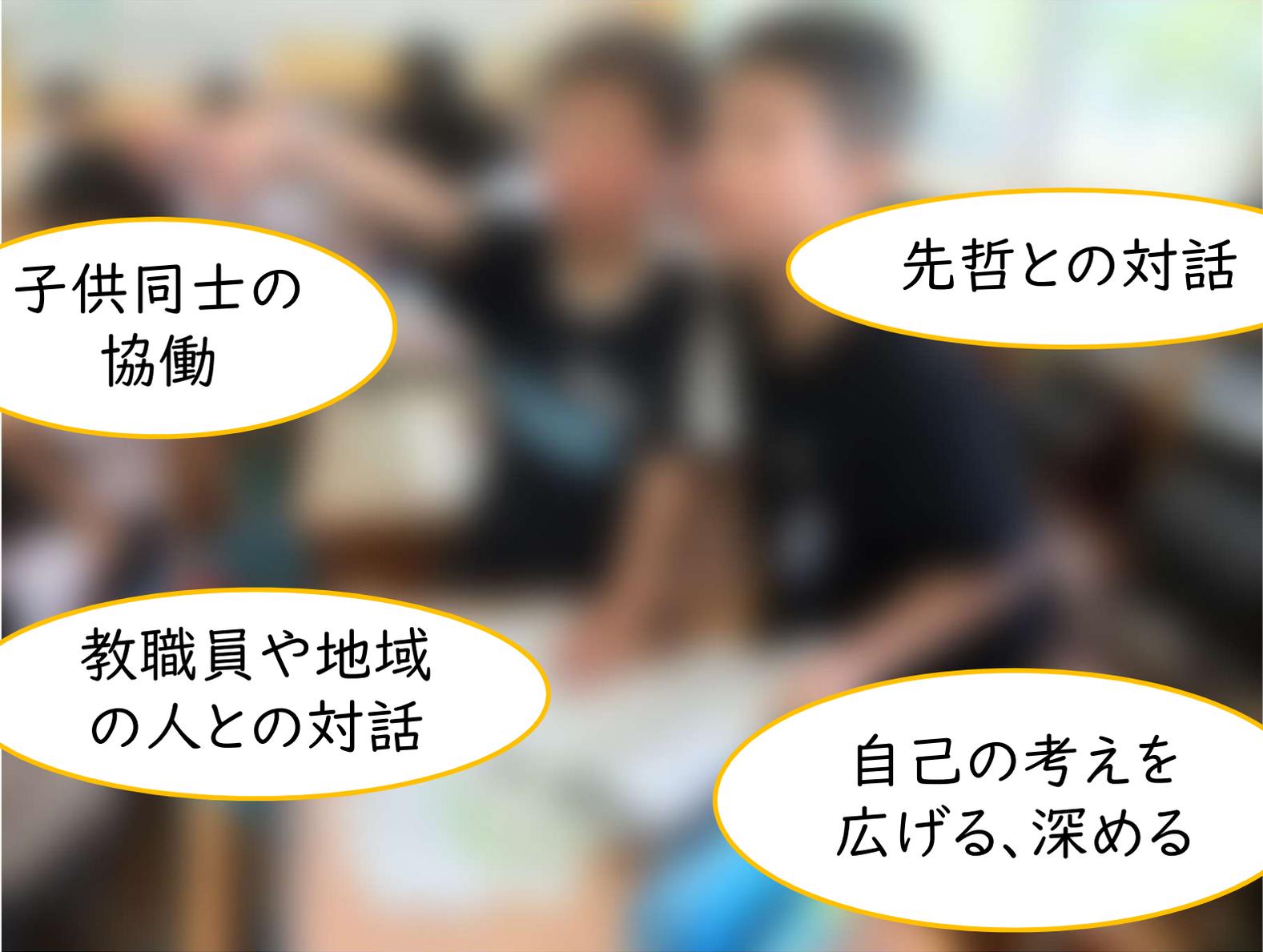
見通しをもつ

学ぶことに興味
や関心を持つ

粘り強く
取り組む

自己の活動を
振り返って次に
つなげる

主体的・対話的で深い学びの実現



子供同士の
協働

先哲との対話

教職員や地域
の人との対話

自己の考えを
広げる、深める

主体的・対話的で深い学びの実現

「見方・考え方」
を働かせる

知識を相互に
関連付けてよ
り深く理解する

情報を精査して
考えを形成する

問題を見出
して解決策
を考える

思いや考えを
基に創造する

総則 第3 教育課程の実施と学習評価

指導と評価の一体化の必要性を明確化

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(1) 第1の3(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら**、児童の主体的・対話的で深い学びを実現に向けた授業改善を行うこと。
(略)

単元計画を作成する

2 学習評価の充実

(1) 児童の良い点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値観を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。**

評価計画をたてる

単元計画を基にした1単位時間の学習指導案の作成

①明確なねらいを設定

②評価規準はねらいと連動

③「C:努力を要する状況」の児童への具体的な手立て

④ねらいに則した「めあて・振り返り」「課題・まとめ」を設定

〇〇がわかった!
〇〇ができるようになった!!

①明確なねらいを設定

5年2組	教科	算数	指導者	〇〇〇〇〇
単元名	面積		時	4/全13時間
題目	平行四辺形の面積を求めよう			
ねらい	平行四辺形の面積の求め方を、 <u>2つの三角形に分けたり、等積変形で長方形に直したりするなど、既習の図形と関連付けて考えることを通して、説明することができるようにする。</u>			
評価	【評価規準】 平行四辺形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。			
	【観点】思考・判断・表現	【評価方法】ノート分析・行動観察		

A 学習内容（～を、～について）

B 学習活動（〇〇を通して、〇〇でまとめて、〇〇と比べて）

C 育成を目指す資質・能力

（△△できるようにする、△△に気付くようにする、△△を高める）

*A～Cの3要素を入れて一文で表す

*Bにおいては、「順序付ける・比較する・分類する・関連付ける・多面的に見る・多角的に見る・理由付ける・見通す・具体化する・抽象化する・構造化する」等、「考えるための技法」を意識する。

授業設計をして臨む

②具体的な評価規準を設定

5年2組	教科	算数	指導者	〇〇〇〇〇
単元名	面積		時	4/全13時間
題目	平行四辺形の面積を求めよう			
ねらい	平行四辺形の面積の求め方を、2つの三角形に分けたり、等積変形で長方形に直したりするなど、既習の図形と関連付けて考えることを通して、説明することができるようにする。			
評価	【評価規準】 平行四辺形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。			
	【観点】思考・判断・表現	【評価方法】ノート分析・行動観察		

単元の評価規準、評価計画に基づいて、
本時の教材・学習活動から、指導者自身が
「B おおむね満足できる状況」と「C 努力を要する状況」
の区別ができるところまで、かみ砕いて、具体的に設定
⇒ **本時のゴールの姿の具体化**

具体的なゴールを描くために、「まとめ」や「振り返り」を書いてみる!

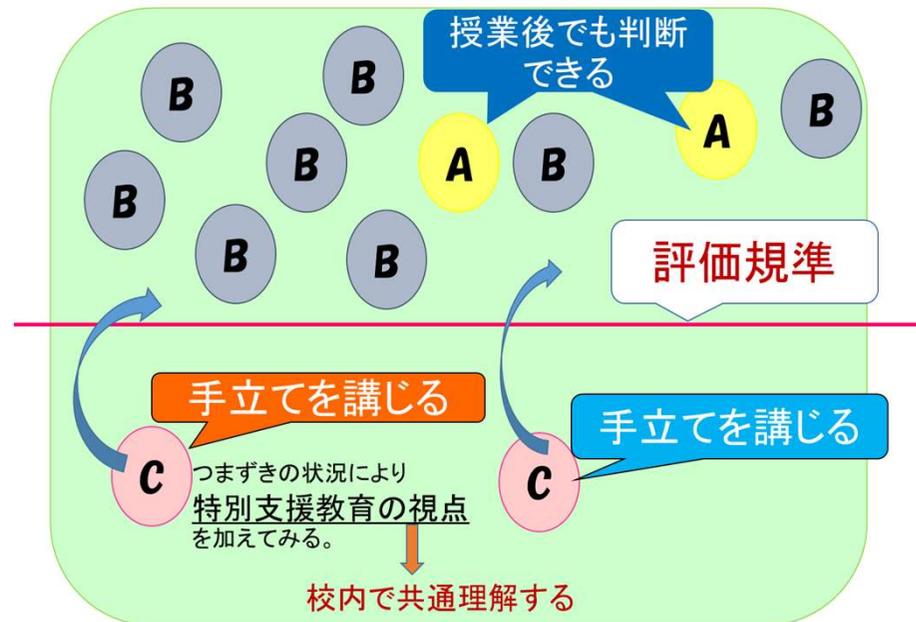


ねらいと評価規準の連動

③「C:努力を要する状況」の児童への具体的な手立て

評価	【評価規準】 平行四辺形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。
	【観点】 思考・判断・表現 【評価方法】 ノート分析・行動観察
「努力を要する状況」の児童に対する手立ての工夫	<ul style="list-style-type: none"> 既習の図形（三角形・長方形・正方形の面積）を使うと求められることに気づいていない児童には、タブレットを使って三角形に分けたり、等積変形したりするなど視覚的な支援をすることで、既習図形と関連付けて考えられるようにする。 既習事項（三角形・長方形・正方形の面積の公式）の定着が不十分な児童には、公式を書いたヒントカードを見るように促すことで、公式を使って解けるようにする。

例) 考えを進められず悩んでいる児童には、前時のノートを見返すように促し、三角形の面積の求め方を考えたときにはどのようにしていたかと問いかけ、既習図形と関連づけて考えられるようにする。



本時の中で評価し、本時の中で「C努力を要する状況の児童に手立てを講じ、すべての児童を「Bおおむね満足できる状況」まで到達させることを目指します。

④ねらいに則した「めあて・振り返り」「課題・まとめ」を設定

【めあて】 付けたい力を身に付けさせるための、本時で目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」。単元や題材の「めあて」を提示することもある。

【課題】 その時間に解決すべき事柄。「なぜ～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるか」など、疑問形で示すことが多い。

【まとめ】 本時の課題に対する答え・結論に当たる。

【振り返り】 めあてに対する振り返り。学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等が次につながられるよう視点を設定することが望ましい。

*「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つが毎時間の授業で必要だというわけではありません。提示の順序やタイミングも授業によって変化します。本時のねらい等に応じ、児童生徒の思考の流れがすっきりとなるよう設定することが重要です。

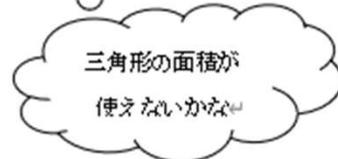
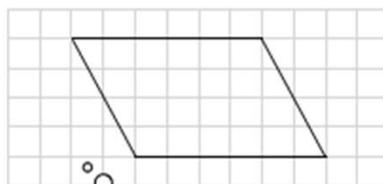
*板書については、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」等を位置付けるとともに、ノートと一体化させ、何をどのように学んでいるか等を、児童生徒が常に振り返ることができるように心がけましょう。

1 めあてを提示する。←

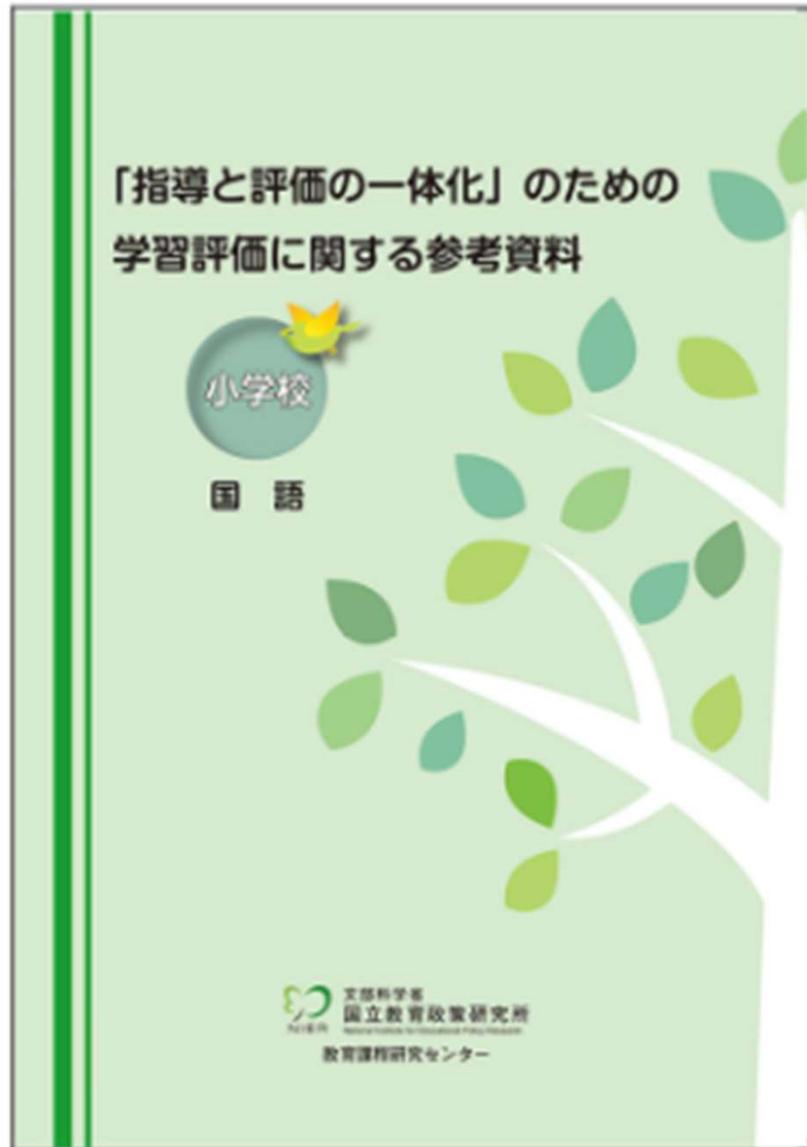
- 既習図形（三角形や長方形等）の面積の求め方を振り返る。←
- 平行四辺形を提示し、児童に困りが出たところでめあてを位置付ける。←

【めあて】 平行四辺形の面積を求めよう。←

←
←
←
←
←
←
←



算数科における評価規準を作成する際の手順



「指導と評価の一体化」のための学習
評価に関する説明資料（各教科等）

※大分県教育委員会義務教育課HP
よりダウンロードできます

令和2年2月
大分県教育委員会